

---

クッチャロ湖学生環境サミット  
CASE1 ～ stage2 ～  
はまとん魅力発見プログラム 2009  
報告書

---



<最終日、事務局のエコハウス前にて大学生の集合写真>

CASE1 ～ stage2 ～実行委員会

# 目次

## 1、開催概要

1. 1. 実行委員長挨拶
1. 2. 共催団体クッチャロ湖エコワーカーズ理事長より挨拶
1. 3. 開催趣旨・理念
1. 4. 関係者名簿

## 2、準備期間報告

2. 1. 環境フォーラムにて地元住民の方への発表
2. 2. 高校生：5月ワークショップ
2. 3. 高校生：6月ワークショップ
2. 4. 高校生：北海道知事との懇親
2. 5. 大学生：第一回全体ミーティング
2. 6. 大学生：第二回全体ミーティング

## 3、当日報告

3. 1. イベント概要
3. 2. 一日目：開会式
3. 3. 一日目：ウエルカムパーティ
3. 4. 二日目：高校生と大学生の合同ツアー
3. 5. 三日目、四日目：地元住民へのインタビュー、カヌー体験など
3. 6. 五日目：最終発表会

## 4、学生からの提案内容

4. 1. 発表内容の紹介
4. 2. 最終発表会アンケート結果

## 5、協賛・後援

## 6、会計報告

## 7、報道採録

## 8、最後に

8. 1. 実行委員長より

# 1、開催概要

## 1. 1. 実行委員長挨拶



<最終発表会にて>

実行委員長の巻島隆雄と申します。思えば、昨年 2008 年の 9 月にはじめて浜頓別町を訪れて以来、ほぼ毎月のように浜頓別を訪れ、今回の企画で 10 回目の訪問となりました。

2008 年度に行われました「クッチャロ湖学生環境サミットCASE1」。その場で提案した浜頓別の高校生と東京の大学生との環境交流。1 年間かけてようやく実現することができました。もちろん実現できた部分、実現出来なかった部分、様々ありましたが、結果として、ツアーのみならず最後の住民の方へのプレゼンテーションまで高校生とともに行うことができ、大変うれしく思います。

参加してくださった大学生のみなさま、ありがとうございました。この写真でも私が着ているチーム T シャツの作成や最終発表会への提案など、みなさまの主体性があったからこそ企画の多くが実現しました。

そして、共催団体のみなさま、協賛企業の方々、そしてご支援くださった個人のみなさま、ありがとうございました。今回のプログラムは費用、人力、モチベーション様々な面でみなさまのお力がなくては決して実現することができませんでした。本当にどうもありがとうございました。

2009 年 9 月 9 日  
東京大学法学部 3 年  
巻島隆雄

## 1. 2. 共催団体クッチャロ湖エコワーカーズ理事長より挨拶



<最終発表会にて>

昨年、我々クッチャロ湖エコワーカーズが共催して開催致しました「クッチャロ湖学生環境サミットCASE1」において提案された「逆環境教育」を実践すべく、巻島実行委員長を先頭に、東京大学のサークル「環境三四郎」のメンバーを中心に昨年末より毎月来町し準備をかさねて、ついにこの度CASE1のstage2が開催されました。

地元地域活性化を、活動内容の一つとしている我々エコワーカーズにとって、地元高校生と一緒に各大学の若者が「はまもん魅力発見プログラム」のテーマに向かって、町民との対話を深め、3組のすばらしいプレゼンテーションを行って頂きました。

CASE1で我々に頂いた提案と、今回のstage2で頂いた提案の実行に向けてエコワーカーズも活動を続けて行きたいと存じます。

参加していただいた学生達に心から感謝すると共に、皆さんの第2の故郷として再度浜頓別にご来町頂きますよう、お願い致します。

最後になりましたが、stage2に多大なる御支援、御協力を寄せて頂きました企業・団体・協力者の皆様にこの場をお借りしまして、心から御礼申し上げます。

2009年9月9日

NPO法人 クッチャロ湖エコワーカーズ

理事長 毛利秀敬

### 1. 3. 開催趣旨・理念

#### 1. 3. 1 学生環境サミットCASEの理念

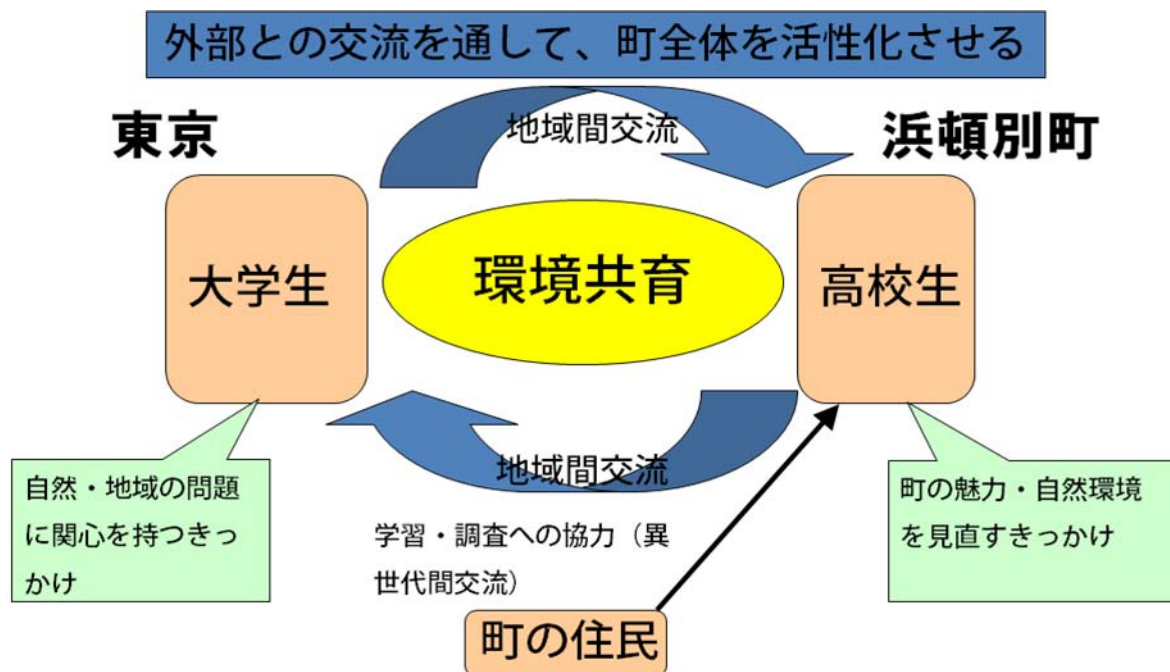
CASEは「人と地球のつきあい方」を理念として掲げ、「水資源とワイズユース」をテーマに、自然や地元の人々とふれ合いながら、環境の保全と地域の活性化を両立させるアイデアを創出することを目的として、全国のラムサール条約締結湿地にてイベントを開催する団体です。2008年9月には、“クッチャロ湖（北海道浜頓別町、日本最北端のラムサール条約登録湿地）”において、全国の学生・地元の住民約200名を巻き込んで「CASE1 クッチャロ湖学生環境サミット」を開催しました。

2009年9月には、“三方五湖（福井県美浜町・若狭町）”、そして2010年は名古屋で行われますCOP10に合わせて“藤前干潟（愛知県名古屋市）”に舞台を移して行う計画であり、さらに継続的な開催によって年を追うごとに参加者を増やし、環境について学びたい学生たちにとって最適なフィールドワークの場としてこれを広く展開していく予定です。

本企画は、CASE1の継続事業として、CASE1において学生から提案された環境の保全と地域の活性化を両立させるアイデアを実践するプログラムです。

#### 1. 3. 2. CASE1～stage2～ 「はまとん魅力発見プログラム2009」の目的

本プログラムでは、東京の大学生と浜頓別の高校生の交流を通して、高校生と大学生がお互いに浜頓別について教え「合う」（共育）ことを目指しました。大学生は全く知らない土地について高校生に教えてもらい、高校生は大学生の反応を見る中で浜頓別の魅力について知る。そして、高校生が「浜頓別の魅力を発見し、発信する方法を考える」ことを本プログラムの目的としました。さらには高校生や私たち大学生の活動を通して地域の方々へと活動を広げ、浜頓別の環境の保全と地域活性化を実現するための第一歩としたいと思い、8月8日の日には地元住民60名の前で発表と意見交換を行いました。



## 1. 4. 関係者名簿

### 学生実行委員

実行委員長 巻島 隆雄○

副実行委員長 小川 拓哉○

安藤 達也○、箆橋 敦志、後藤 祐平、武部 芳弘、西田 陽一、丹羽 桃子、麻柄 紀子、江川 守彦○、川端 麗奈、菊池 恵理○、上村 紋代○

※名前の右に○をつけたのは、8月4日～9日の本企画参加者

### 事務局

大原 玲美子（レッドキューブ株式会社）

### 共催団体

NPO法人クッチャロ湖エコワークス

毛利 秀敬（理事長）、森 宏美（副理事長）、北村 秀行（副理事長）、丹羽 徳子（理事）

菊池 勝幸（理事）、仲野 強（理事）、中村 和之（理事）、菊地 ともえ（事務局）

### その他ご協力者様

栗田 和弥（東京農業大学 地域環境科学部 講師）、伊藤 俊哉（住友林業緑化株式会社）

原口 真（株式会社インターリスク総研）



## 2、準備期間報告

「はまもん魅力発見プログラム 2009」では、以下のように2008年12月から準備を進めてきました。12月から、NPO法人クッチャロ湖エコワーカーズを中心とした現地住民の方々との交流、また浜頓別高校の学生たちとの交流、ワークショップなどを行ってきました。

準備期間中のスケジュール

月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
地元住民	→ 交流を続ける								
高校生	● 高校での話し合い		● 高校での話し合い			● 高校でワークショップ	● 高校でワークショップ		
大学生						→ 参加者募集	● 全体ミーティング	● 全体ミーティング	→ 班ごとの打ち合わせ



<2008年  
12月10日  
日刊宗谷新聞>



### 中高校生と交流し 貴重な自然話し

東大生が浜頓別を再訪

【浜頓別】今年九月、高で町内の中高校生と意に東京の大学生らが開 見交換した。いた「クッチャロ湖学 訪れたのは、同サミット」の発表の中で、環 加した学生が「このほ 境問題への意識を高め と町を再訪し、浜頓別 互いに再確認した。」



意見交換する大学生と中 高校生たち

ちと都会の大学生の交 換留学を提言した東大 の巻島隆雄さん(文科 一類二年)と、共鳴し た同大の三人。

提言実践への第一歩 として、巻島さんらが 同高に意見交換の場を つくれないかと打診。 浜頓別中と同高の生徒 会役員ら十二人が迎え る形で実現した。

上野直幸教頭の司会 で進められた意見交換 では、大学生側が「ク チャロ湖は学校の勉 強やふだんの生活の中 で、どういう存在なん だろうかと質問した。

高校生からは「日 本史の授業で悪六住居 の跡を見に行く」「部 活動で周囲を歩くくら い」といった声があり、 貴重な自然を活用する 余地がまだあることを 互いに再確認した。

(寺林正郁)

<2008年  
12月10日  
北海道新聞>

12月 11日(木曜日)

平成20年 日 刊

発行所 稚内市開運2丁目1番8号  
株式会社 宗谷新聞社

電話 営業035010番 編集035011番・F 035012番  
(購読料1ヵ月1,200円 定価1部50円消費税込)

# 日刊宗谷

## 宗谷ほうき

ことしの夏、 浜頓別町クッチャロ湖畔で開催した東大生などの環境フォーラムは1つの成果を呼んだが、これが、きっかけで明年湖畔に体験ツアーが訪れることになった▼何か1つの出来事があり、そのことに感動すると、次ぎ次ぎと人を集めることが出来る1つの例として注目されることである。

▼住んでいる人には感じられないかも知れないが、都会にない自然の美しさや大切さが改めて、とても貴重な体験となる。ツアーを呼びかけた主催者の感動の言葉である。

▼そしてこのほこれらも大事にしてゆきたいものだ。勿論受け入れる側の接し方もあるだろうが、浜頓別中、高校生に呼びかけて受け入れのお手伝いを要請していたが、これらの生徒がしっかりと対応をし、同時に自分達の住んでいる地域に大きな誇りを持つ考えを広げてゆきたいものである。

▼意外と毎日見ている自分達の住環境の弱りは見えないのだが、他から見るとそれが極めて珍しく、美しいものだと思うことが多い。観光スポットを見出せないのは、そこに生活している人のマナー化があるからで、貴重な景観などの有難味に気付かないことが多いのは反省すべきだろう。

▼他からの刺激を受けて改めて、見直す必要がある。美しいもの珍しいものがあふれる。そうしたものをこれからも掘り起こしてゆくの、地域の大きな財産を生み出すことになると思う。交流というものはその意味で大切だ。

<2008年12月11日 日刊宗谷新聞>

## 講演や報告会

### 8日 浜頓別で環境フォーラム

【浜頓別】NPO法人クッチャロ湖エコーカーズでは、3月8日午後8時から町福祉センター大ホールで「環境フォーラム」を開く。

昨年実施した学生環境サミットの成果や2009年度以降の事業展開、環境活動を中心とした町づくりなどについて意見交換するほか、講演や報告会を行なうもの。講演

は大同特殊鋼環境エネ ルギー部長・野村一朗氏、東京農大地域環境科学部 造園科学科自然環境保全 学研究室講師・栗田和弥 氏。さらに、クッチャロ湖学生環境サミットに参加した学生が、サミット に関して報告する。

エコーカーズでは、環境活動などに興味のある人は気軽に参加して下さいと呼び掛けている。

<2009年2月21日 日刊宗谷新聞>



## 2. 1. 環境フォーラムにて地元住民の方への発表

2009年3月8日におこなわれました、NPO法人クッチャロ湖エコワーカーズ主催のイベント「環境フォーラム」にて、地元住民のみなさまに対して「はまとん魅力発見プログラム2009」の構想を発表しました。



〈福祉センターにて：発表の様子〉

日 刊 宗 谷 平成21年3月11日 (水曜日) (2)

### クッチャロ湖保全

#### 浜頓別で環境フォーラム

【浜頓別】NPO法人クッチャロ湖エコワーカーズでは8日、福祉センター大ホールで環境フォーラム「クッチャロ湖保全・地域活性化プログラムの実現に向けて」を開催。町内外から80人が参加して、湖沼の保全や地域起こしについて考えた。

「クッチャロ湖保全・地域活性化プログラムの実現に向けて」をテーマに、クッチャロ湖エコワーカーズ理事長が「クッチャロ湖の保護と利用の促進が必ずなすべきことになる。積極的に考えてみよう」と挨拶。昨夏に本州の大学生が参加して開催した、環境サミットの取り組みについての説明があった。

基調講演は「企業の環境保全活動について」と題して、大同特殊鋼環境エネルギー部長、野村一郎氏が、世界的な企業の様々な環境に配慮した活動について紹介した。続いて環境サミットに参加した学生達が、昨夏の活動を振り返りながら、今後どう展開していけばといった考えを発表。「はまとん魅力発見プログラム2009」と題して、浜頓別町、同中生や商工会、漁協青年部と意見交換した東大生4人などのグループは、意見交換のなかで地元の人々が町の魅力をどう感じているかなど把握。浜高生と一緒に今夏町について学んでいければと計画。

「浜頓別パーカーで町おこし」環境保全」として東大生2人は、町の素晴らしい食材を活用することで、観光客はもちろんだが町内の人にも楽しんでもらうはずなどと提案。大同工業大学の2人は「水質・地質調査でエコサイエンスツアー」と題し、簡易な水質、地質調査の方法を紹介した。また、東大地域環境科学部造園学科・自然環境保全学研究室講師、栗田和弥氏が「環境をキープ」した地域再生について説いた。

80人が参加して環境保全など考えたフォーラム

〈2009年3月11日 日刊宗谷新聞〉

# 地場食材で料理やエコツアー 浜頓別の魅力発信を

## 環境フォーラム 東京の学生ら提言

【浜頓別】クッチャロ湖の保全や活用に取り組み町内のNPO法人クッチャロ湖エコワーカーズ(毛利秀政理事長)はこのほど、自然とからめながらマチの魅力をいかに発信するかを考える「環境フォーラム」を、町福祉センターで開いた。



浜頓別の自然を生かした地域おこしを考えるフォーラム参加者たち(エコワーカーズ提供)

学生らが成果を発表した。東大のサークル「環境三四郎」は、サミット後も浜頓別を訪れ地元の高校生と交流して「今年夏に浜頓別で、高校生と都会の大学生で町おこし」と題して、地元産物を素材に

を掘り起こし、発信する方法を考える機会を、大同工大(名古屋)のチームは簡単な水質・地質調査と組み合わせたエコツアーを企画している。また、東京農大のチームは「浜トンバガ」に参加者は熱心に耳を傾けていた。

(吉林正郁)

# 手作り弁当 お年寄

## 利尻富士町社協

【利尻富士】町社会福祉協議会はこのほど、町内の七十五歳以上の高齢者に手作り弁当を届ける配食サービスを初めて行った。

昨年までは、ひな祭りなどの行事に合わせ、町内の二カ所の施設に高齢者に集まってもらい、会食などを行ってきた。しかし、最近対象者の約二割しか集まらなくなってきたため、希望者に弁当を届ける配食サービスに替えた。

この日は、町食生活改善協議会などの二十五人が、総合保健福祉センターと鬼脇公民館で調理を担当。旬の食材を使うとともに、栄養バランスを考え、山菜ご飯、鶏肉と根菜の煮物、タラのフライなどを作った。

出来上がった弁当は、町青年ボランティアクラブの十八人が八グループに分かれ、希望のあった百二十八世帯の百七十八人に配達した。

高齢者は「ありがたい」と感謝の声をかけていた。

(西島徹通信員)



手作りの弁当を受け

<2009年3月14日 北海道新聞>

日刊宗谷

3月 17日(火曜日)

平成21年 日刊

発行所 稚内市開道2丁目1番8号

株式会社 宗谷新聞社

電話 営業035010番 編集035011番・F 035012番

(購読料1ヵ月1,200円 定価1部50円消費税込)

# 地元高生と環境共有

## 東大グループ 今夏来町して交流

環境問題の解決を目指す。生や住民との交流を図る。クッチャロ湖)が存在する浜頓別の高校生をはじめとした次世代を担う若者たちに、郷土の雄大な大自然に対し、関心や誇りを持ってほしいと交流を続けている。環境問題への取り組みにより、過疎地の地域活性化に貢献しようという考え。東大生の環境活動団体「環境三四郎」内に「はま」と「プロジェクト」を充足させて、現地若者との交流を深めようとしている。

今夏の取り組みは、現地の高校生と都会の大学生が互いに教え合う「環境共有」の開催。日程や内容については、今後、浜頓別町内関係機関、団体と調整。夏休みを利用して、学生10人程度が浜頓別町を訪れる。

<2009年3月17日 日刊宗谷新聞>



国際的な渡り鳥の生息地保全事業

クッチャロ湖が参加

ネットワー参加証書を手渡される広瀬町長(右)



【浜頓別】国境を越えて飛ぶ渡り鳥の生息地保全を  
目指す国際的な連携事業「東アジア・オーストラリア  
地域フライウェイ・パートナーシップ」のネットワー  
ク参加証書が、浜頓別町に授与された。コハクチョウ  
の飛来地として知られるクッチャロ湖の保全を通じ、  
他の参加地との交流が期待されている。(寺林正都)

研究や情報発信へ

ほかにインドネシ  
ア、シンガポール、韓  
国、米国、ロシアなど  
の政府、ラムサール  
条約事務局、国際湿地  
保全連合などの国際機  
関が加盟する。日本国  
内では「重要生息地ネ  
ットワーク」として全  
国二十九カ所、道内七  
カ所が名を連ねる。  
ネットワー参加地  
は国際的な情報交換網  
の中に位置づけられる  
ほか、地元自治体など  
の役割として、生息地  
の保全や調査研究など  
に取り組むことが求め  
られる。  
議長国オーストラ  
リア政府からの参加証書  
はこのほど、窓口であ  
る環境省の塚本瑞夫・  
北海道地方環境事務所  
長が授与を執り、広瀬  
忠雄町長に手渡した。

今年にはクッチャロ湖 同湖の情報発信して  
が、同事業と関連の深い  
ラムサール条約登録  
同湖畔にある水鳥観  
望地となつて二十周  
祭館の小西政さんは  
道内では釧路湿原、苫  
年。記念事業を計画し「他のネットワー参加  
地との交流にもつな  
小牧・ウトナイ湖、美  
網・宮島沼などが参加  
ネットワーを通じて  
がらんとする」と、誇り  
を込めて話している。

<2009年3月17日北海道新聞>

2009年4月28日 火曜日

週刊 東京大学新聞

北海道の高校生と語る

学生団体 環境三四郎 共にまちづくり 8月に

環境問題を扱う学生団体  
環境三四郎は、北海道浜  
頓別町で東京の大学生と現  
地の高校生が共に行なつ  
ていく「自然と共生し  
ていくまちづくり」を主  
眼としたイベント「自然と  
共生するまちづくり」を  
開催する。期間は8月4  
日から8月10日まで、現  
地の高校生と交流や自然  
体験などを通して「自然  
と共生するまちづくり」  
を主眼としたイベント「  
自然と共生するまちづく  
り」を開催する。期間は  
8月4日から8月10日  
まで、現地の高校生と交  
流や自然体験などを通  
じて「自然と共生するま  
ちづくり」を主眼とした  
イベントを開催する。



浜頓別町は札幌の北東約  
300kmにあるオホーツク  
海側の町で、人口は約43  
000人。酪農や漁業が盛ん  
で、ラムサール条約登録温  
地・クッチャロ湖をはじめ  
豊かな自然を擁するが、過  
疎や高齢化などに悩まれ  
ている。外部からの視点で  
地域を活性化しようと、環  
境三四郎などが企画した。  
費用は4万円、定員15人  
で、申し込み締め切りは5

月7日、全体説明会を4月  
30日に開催する。午後6時  
10分に駒場キャンパス正  
門前に集合。問い合わせは  
hamatonobei@gmail.  
com(メール)で。

<2009年4月28日 東京大学新聞>

## 2. 2. 高校生：5月ワークショップ

2009年5月18日（月）の放課後に浜頓別高校の生徒たちを対象に、町の「観光コース・デートコースを考える」というワークショップを開催しました。30名程度の高校生に参加してもらいました。



<5月ワークショップポスター>



<浜頓別高校にて：浜頓別現況模型 1:2000 この模型を使ってワークショップをおこないました！>



<浜頓別高校にて：模型を前に自分たちのコースを説明する高校生>



# デートコースを“提案”

## 浜頓別高生のおすすめ♡

【浜頓別】東大のサークル「環境三四郎」が取り組んでいる「はまどん魅力発見プログラム」で、浜頓別高生とのワークショップが十八日、同高で開かれ、生徒たちが考えたおすすめのためのデートコースを、市街地の模型を使って発表した。

(守林正郁)

若い世代がまず故郷 生徒たちのこの日のをよく知ることから、テーマは、五時間で巡るおすすめの見学コースを、方法を探ろうという趣向。プロジェクトの責任者、巻島隆雄さん(学部三年)ら学生五人が、同高生徒二十五人が参加し、地域の有志数人も見学した。

## 東大生と地域PR企画

生徒たちは「バスターミナルで待ち合わせ、公園で弁当」「クッチャロ湖で夕日を見た後、湖畔の足湯に入る」「デートの締めはビールカレーがうまいこの店」などのアイデアを次々と発表した。

施設整備案では、映画館やファストフード店といった都会的なものが出た一方、湖の夕日を一望できる喫茶店をメニューや内装も含めて示したり、森を生かした遊歩道整備など、マチの特色を生かす提案もあった。



市街地の模型を前に、デートコースを考える生徒ら

今後は、六月に町内の卒業の現場や特色ある活動をしている人を訪ねる見学会を実施し、八月には首都圏の大学生を集め、総まとめるイベントを行う。

<2009年5月19日 北海道新聞>

# 東大生 浜頓別の町おこし

【浜頓別】東大の学生サークルが、研究で訪れた宗谷管内浜頓別町に魅せられ、地元を巻き込んでマチの活性化と魅力の発信に取り組んでいる。十八日には、首都圏の大学生を同町に集め、地元高校生らとマチのPR方法を話し合うワークショップを開く。

「はまどん魅力発見プログラム」と名付け活動を進めるのは、同法学部三年巻島隆雄さん(二〇)、大学院工学系研究科一年安藤達也さん(二〇)らサークル「環境三四郎」(学生五十人)の十人。巻島さんは昨秋以降、自費で月一回ほど来町、浜頓別高の協力を取り付けたほか、「地域全クッチャロ湖学生環境サミットで、「年齢の近い大学生と地元高校生の交

## 地元高校生と連携

進めた。体験型観光促進などに取り組むNPO法人クッチャロ湖エコーカース理事で浜頓別建設青年会長の中村和彦さん(右)は「町外の若者の視点がいい刺激になっている」と言う。

初の具体的な成果は、十八日に同高で開くワークショップ。生徒がマチの模型を使い自ら調べて組み立てた、おすすめのデートや観光コースを発表、東京の学生と意見交換する。



ワークショップの内容を話し合う巻島さん(左)と安藤さん

こうした交流は六、七月も行い、八月にはより多くの学生を募るイベントを予定。巻島さんは「学

## 18日、首都圏の大学生集め研究会

<2009年5月15日 北海道新聞>

<2009年5月22日  
宗谷新聞>

# 今夏エコツアー

## 東大生 計画前にワークショップ

【浜頓別】昨年9月に学生環境サミットで浜頓別町を訪れた東大の学生連等が、はまどん魅力発見プログラムとして今夏20~25人のエコツアーを計画。それを前に東大生と浜頓別高校生が町について考えるワークショップが18日、浜頓別高校で行なわれ、観光客のためのガイドコースやアートコースなどについて考えた。

東大生は同大の環境サークル「環境三四郎」のメンバー。次代を担う地元の高校生に、浜頓別の自然環境や産業の独自性、自然環境と調和した町づくりについて考えるきっかけづくりをワークショップを開いたもの。

参加した浜高生は数グループに分かれ、市街地の様子や地図などを用いて東大生らと5時間で行ったコースについて考えた。



町を巡るコースについて考える浜高生と東大生

水産加工施設など産業の現場の見学ができないかと計画している。

こうした活動に協力してくれる方は寄付をと呼びかけている。寄付の方法はホームページで案内している(Url: www.sanshiro.ne.jp/hamaton/program.php) (塚本岳人)

31日 枝幸図書館でかみしばい

【枝幸】町立図書館では31日午前10時から同館でかみしばいを行う。(び)

## 会長に中村氏再選

### 浜頓別商 会員の巡回指導強化

【浜頓別】浜頓別町商工会では18日、商工会館で平成21年度通常総会を開き、平成22年度事業、決算報告、同21年度事業計画、収支予算案など原案承認。任期満了の役員改選で会長に中村忠宏氏を再任した。

中村会長は、平成20年度は町の特産品認定を受けショッピングサイトで販売するなど販路拡大、エコ活動推進を目的としたノリレジ袋運動やポイントカード加入拡大を図った。今年度は不況などを踏まえ、環境は商工会を取り巻く環境は厳しいが、会員企業の深刻な経営環境を乗り越え、平成21年度巡回指導の強化など重点事業を進める。プレミアム付商品券は町の支援で実施できたなどと挨拶した。

今年度事業は、重点事業として全国的に記載システムを導入を推進台会も進めており、記載機械化(Nettode)の推進、会員巡回指導の強化、事業の効率的推進のための内部機構の検討として、5つの委員会を再構築し地域振興事業推進(再)上西芳信(新)。

このほか、経営改善普及事業、地域振興事業、指導強化事業、役員員に係る研修等、受託事業など、細かに実施内容を示し推進していくこととした。なお役員は次の通り。

▽副会長 丹羽幹典(再) 山田広(新) 理事 林幸雄 廣瀬 伊藤洋一 毛利秀敏 平井義春 品田輝大 高橋政志(以上再) 大野充博 淡路敬昭(再) 根田邦夫 小泉弘之(以上新) 中村忠宏(再) 核目文字(新) 監事 宮永克彦(再) 上西芳信(新)。

(塚本岳人)

よんびよんびたむひ「おおきく おおきく おおきくなあれ」を披露する。無料、家族で訪れ楽しんで下さいと呼び掛けている。

広告の御用命は 日刊宗谷へ

35 北海道経済

【第三種郵便物認可】

## 東大生の町おこし支援、テーマは▶



## 浜頓別の高校生に体験型講座

学生グループは八月に首都圏の他の大学生らを集めて町を再訪し、現地の魅力を都会に向けて発信するイベントも企画している。

## デートコースを考えよう

地域の環境保護や町おこしを支援する東京大学の学生グループがこのほど道立浜頓別高校(宗谷管内浜頓別町)で、生徒向けにワークショップ(体験型講座)を開いた。テーマは「浜頓別のデートコースを考えよう」。

約三十人の生徒が班に分かれ思い思いの案を発表した。写真。案をまとめるうえで唯一の条件が「町内ない施設を一つ加える」。映画館などを新設する提案が多かったが、その後の議論では「採算がとれないければやらないからね」との意見も。生徒たちは町づくりのポイントを体得した。

<2009年5月23日  
日本経済新聞>



# 地域発

## 未採入

### 浜頓別町

「ここにゲームセンター 競馬場 二アットコース 造ってLFOキッカーを考案そう」を聞いた町 しながら私のハートもキッ 内にはない施設を二つ新設 ッチでもらう「アハハ、 町外の恋人を歩く時 間コースを考案、という それいいじゃん」。

宗室からオホソク海 課題に約30人の生徒が取り 御を前に約80、日本東北 組んだ。

のラムサル条約指地、一 駅舎が欲しい「コ クッキー口湖がある浜頓 ンにもあるといない」

内浜頓別町で、東京大学の 最初は気軽に考えてい 学生と地元高校生が交流し た高校生も、次第に「でも ながら町づくりを考案試 実際に行きたら、お客が人 みが進んでいる。聞いては ならないとっていけないよ まごん魅力発見プログラ ね。町の人口は1700時 ム」だ。

その環として5月、数 人。「欲しい施設がな 人の東大生らが浜頓別高校 を訪れ、ワークショップ体 すればいいのか考えよう」

## よそ者と若者が町づくり

東大生が作ってきた町の模 型を使ってデートコースを 考える浜頓別高校生



## 活動通じ魅力発掘

と話す東大生の言葉に、町に大きな春を待つ大同特殊 づりの計画を交感した。徒 訓などが、全国の学生約1 00人を集めて町づくり、 多かったようだ。

リゲの東大法学部3 環境保全イベントを開いた 年、巻島隆雄さんと町内と ことがきっかけだった。参 も早期健全化団体に指定さ ぬ限り支援をしていく。」

の出台は昨年9月、町内 加した巻島さんは地元の高 れる見直しだ。自慢の自然

校生が東大の大学生に町を 紹介するという「逆環境教 育」を提案。イベントで大 賞を獲得し、その実践が始 まった。

巻島さんやその仲間が町 を毎月訪れ、高校生から大 人まで様々な住民と交流を 続けている。

町では20年前に鉄道が廃 も「知らない所に来ている 線となり、今も人口が年1 000人のペースで減る。町 ら高校生に教えてもらう。 それを、彼らが自分たちの 町のことを考える契機にな れば」と話す。

活動への期待も大きい。 浜頓別町長は「浜頓別は、 広い町だが、まだまだ地元 だ。旅費を含め、ほぼすべ が気付いていない魅力も多 ての費用を自腹で訪れ入都 づくりを生かしたい。可能 こそ、たちに注がれる地元 の視線は熱い。」

（増淵 隆）

## 北海道

電話 0011-1222-1133  
0011-1222-1133  
0011-1222-1133  
0011-1222-1133  
0011-1222-1133  
0011-1222-1133  
0011-1222-1133  
0011-1222-1133  
0011-1222-1133  
0011-1222-1133



<2009年6月17日 日本経済新聞>

## 2. 3. 高校生：6月ワークショップ

2009年6月24日の放課後に浜頓別高校の生徒たちを対象に、「町の魅力の伝え方を考えよう」というテーマでワークショップを開催しました。8名の高校生に参加してもらいました。



<浜頓別高校にて：プロジェクト紹介を行うスタッフ江川>



<浜頓別高校にて：グループワークで魅力の伝え方を考えました>



<浜頓別高校にて：地元の方にも参加していただきました。町の魅力を伝える劇の様子>



## 2. 4. 高校生：北海道知事との懇親

2009年7月6日（月）に北海道知事の高橋はるみ氏との懇親を浜頓別町 水鳥観察官レクチャールームにておこないました。代表の巻島が、地元の高中生3名とともに参加して、知事に対して「はまとな魅力発見プログラム2009」の内容について説明させていただきました。高橋知事も活動に共感していただき、応援のお言葉をいただきました。



<クッチャロ湖水鳥観察館にて：懇親後の一枚>



<2009年7月7日 日刊宗谷新聞>

## 2. 5. 大学生：第一回全体ミーティング

「はまとん魅力発見プログラム 第1回全体ミーティング」を6月14日(日)に東京大学本郷キャンパスで行いました。「自分のまちの魅力」についての発表を各自に行ってもらい、「町の魅力」とはなんだろうか？ということに参加者で考えました。



＜東大本郷キャンパスの教室にて：自分の町の発表をおこなう大学生＞



＜東大本郷キャンパスの教室にて：ディスカッションの様子＞



＜東大本郷キャンパスの教室にて：発表の様子＞

## 2. 6. 大学生：第二回全体ミーティング

「はまとん魅力発見プログラム 第2回全体ミーティング」を7月4日(土) 13:00～18:00に東京大学本郷キャンパスで行いました。本郷の町でグループに分かれてフィールドワークをおこなうことで、



浜頓別町でのフィールドワークの練習をおこないました。また、フィールドワークの後に各グループからフィールドワークの成果の発表がありました。



<東大本郷キャンパスにて：企画概要説明の様子><東京・本郷にて：地図を持ったの町歩きの様子>

### フィールドワークの成果発表の一部

歴史物満載



歴史の眺望を感じる坂



<東京・本郷にて：

上段左：和紙店の店員さん 上段右：本郷の古い家屋から新しいビルまで並んでいる坂の眺望

下段左：地元で働くクリーニング屋のおばさん 下段右：様々な年代の人々が楽しんでいる町>

## 3、当日報告

「はまとん魅力発見プログラム 2009」では、本期間である8月4日～9日の間、以下のようなスケジュールで動きました。ここでは、当日の様子を報告します。

### 3. 1. イベント概要

#### 企画名

クッチャロ湖学生環境サミット CASE1～stage2～

「はまとん魅力発見プログラム 2009～つながる町づくり、人づくり～」

#### 開催日時

2009年8月4日(火)～8月9日(日)

#### 開催場所

北海道枝幸郡浜頓別町内

#### 主催

学生環境サミット CASE1～stage2～実行委員会

学生実行委員：東京大学 環境三四郎

#### 共催

NPO 法人クッチャロ湖エコワーカーズ、浜頓別町

#### 事務局

CASE 事務局（レッドキューブ株式会社内）

#### 後援

北海道、農林水産省、環境省北海道地方環境事務所

#### 協賛

大同特殊鋼株式会社、サッポロビール株式会社、大同興業株式会社、株式会社 丸井グループ

日本コカ・コーラ株式会社

（以下、ご協賛くださった地元企業のみなさま）

丹羽建設株式会社、スーパーなかむら、菅原佃煮工場

#### 参加者

大学生参加人数 16名、高校生参加人数約 10名、その他浜頓別住民 100名ほど

#### 参加費（大学生）

50,000円(東京浜頓別間の交通費、現地での滞在費を含む)



	8月4日(火)	8月5日(水)	8月6日(木)
3:00			3:30 起床→カヌー
4:00			朝日を見る ※おにぎり(セイコーマート)を持たせる
5:00	参加者羽田に集合(5:30)		
6:00	SKY601にて6:35に羽田空港発	朝食班:起きて朝食作る 担当( A )	6:00 起床(カヌー不参加者) 6:30 朝食(自炊) 担当:スタッフ(カヌー不参加者)
7:00		7:00 起床 7:30 朝食	7:00 テント片付け開始
8:00	8:10 参加者旭川に着。 スタッフ小川が出迎え	班ごとに分かれて行動 ※8:20～8:50 班ごとの話し合いの時間 本日のツアー先に関してグループAとグループBに分かれてもらう	8:00 キャンプ場発
9:00		9:00 キャンプ場発 高校に向かう	
10:00			
11:00		9:45 高校集合	
12:00		2グループに分かれて、 10:00～16:00 ツアー 16:00～17:00 議論 ＜グループA＞担当(巻島)	
13:00	13:00 参加者到着 キャンプ場に移動してキャンプ設営	10:30～11:30 ポン沼散策(営林署) 11:45～12:45 お昼(@浜頓ホテル) 13:00～15:00 小川ぶんちゃん牧場 15:10～15:40 風車見学(鈴木芳孝さんお話) 15:50 集合(中央公園) ＜グループB＞担当(小川)	9:00 班ごとの自由行動開始 ・エコツアー ・話し合い ・交流 ・見学 ※班長と巻島の連絡をおこなう
14:00	オリエンテーションと休憩	10:30～12:00 太陽ふぁーむ 12:00～13:00 お昼(@浜頓ホテル) 13:30～15:00 船乗り体験(山本賢一さん) 15:10～15:40 風車見学(鈴木芳孝さんお話)	
15:00	お風呂&エコハウスに荷物を預ける	15:50 集合(中央公園) 議論の場所は 天気→中央公園(役場の前の公園) 雨天→水鳥観察館	
16:00	開会式設営準備 ※準備しない人は自由行動		
17:00	17:00～18:00 開会式@水鳥観察館 参加者:大学生15人・来賓・プレス・町の人5人～15人くらい。 (*高校生は呼ばない) 0、開会に際して(巻島) 5min 1、町長あいさつ 10min 2、エコワーカーズの理事長あいさつ(毛利) 5min 3、開催経緯(巻島) 4、8月4日～9日にやること 各班の班長から一言! 10min 5、ご協賛の紹介 10min 6、終わりのことば 5min	エコハウス(事務局)で荷物取って、お風呂に向かう。	17:00 ウイング(お風呂)に集合
18:00	懇親会(18:00～21:00)@キャンプ場	清風苑祭り ※自転車移動 ※各自ご飯は食べる ※最終発表会のピラを配布	18:00～20:00 中間発表+クロス スティスセッション@仁達内コミュニ ティセンター
19:00	参加者:大学生15人・町の人15人くらい。 目的:エコワーカーズなど特にお世話になる方との懇親		
20:00			20:00～21:30 夕食(自炊) 翌日予定の連絡など
21:00	片付け	キャンプ場に集合	
22:00	最終発表会に関するミーティング	班ごとの話し合いの時間 ※車は誰が運転するかも含め	
23:00		就寝	21:30～ 班ごとの話し合い
0:00	就寝		
1:00			宿泊は仁達内コミュニティセンター
2:00			

	8月7日(金)	8月8日(土)	8月9日(日)
3:00			
4:00			
5:00			
6:00	6:00 起床	6:00 起床→朝食	
7:00	7:00 朝食 自炊担当は( C )	プレゼンテーション準備	
8:00	8:00~13:00 自由行動 ・エコツアー ・話し合い ・交流 ・見学		8:30 起床
9:00			9:00 朝食
10:00			片付け
11:00			※一部の人はウソタンナイ砂金探掘公園のお祭りで交流
12:00		11:00 昼食@仁達内コミュニティセンター ※スタッフ2名戻ってくる	
12:00		12:00 移動 12:20 福祉センター到着 12:20~13:30 プレゼンテーション準備	12:00 出発
13:00	13:00 仁達内コミセン集合 プレゼンテーション準備 ※おすすめとしては、早く始めたほうが いいけど、夕食にきてくれればOK	14:00~14:10 開会の挨拶 14:10~14:25 来賓のあいさつ <第一部:高校生と大学生の「はまとの魅力再発見」> 14:25~14:35 高校生より、今回のプログラムに参加しての感想 14:35~15:20 大学生による発表(15分×3) A班「はまとんに大学をつくろう! ~みんな学生のまち、はま とん~」 B班「ハマトンもと暗し~Water Experience~」 C班「はまとんタンポポプロジェクト」 15:20~15:35 休憩 <第二部:はまとの魅力を活かしてもっと元気に!> 15:35~16:55 ・班に分かれての意見交換 ・各班から出た意見の共有・まとめ ・講師からの講評(東京農業大学講師栗田和弥)	
14:00		16:55~17:00 閉会のあいさつ	
15:00			
16:00			
17:00			飛行機発(SKY610)
18:00	18:00~19:00 夕食	終わり次第、福祉センターで打ち上げ ※お酒は出ない	
19:00	自由、プレゼンテーション準備 ※宿泊は仁達内コミュニティセンター	2次会以降@エコハウス ※宿泊場所はエコハウス	
20:00			
21:00			
22:00			
23:00			
0:00			
1:00			
2:00			

### 3. 2. 一日目：開会式

日時：8月4日 17時～18時

場所：浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館

概要：「はまとん魅力発見プログラム 2009」の開会式をおこないました。昨年9月に行われた学生環境サミット後の活動の経緯を代表の巻島から説明した他、学生参加者から6日間の抱負を話してもらいました。



<クッチャロ湖水鳥観察館にて：企画開催の経緯を説明する巻島>

※ピンク、青、赤、緑のTシャツは参加大学生で作ったチームTシャツ



<クッチャロ湖水鳥観察館にて：各班の班長からの意気込み>

### 3. 3. 一日目：ウエルカムパーティ

日時：8月4日 18時～21時

場所：クッチャロ湖畔キャンプ場 東屋

概要：開会式の後、宿泊場のキャンプ場近くで、地元住民の方々との懇親会をおこないました。大学生 15名のほか、NPO法人クッチャロ湖エコワーカーズのメンバーを中心とする地元住民 20名ほどが参加し、交流を深めました。



<クッチャロ湖畔にて：教育長の音頭で乾杯>



<クッチャロ湖畔にて：大学生と地元住民の方との交流>



### 3. 4. 二日目：高校生と大学生の合同ツアー

日時：8月5日 10時～17時

概要：高校生と大学生と一緒に浜頓別を回り、酪農体験・船乗り体験などをおこないました。高校生も行ったことのないところに行き、浜頓別の意外な一面を発見したようでした。ツアーを行った後に、高校生と大学生で感想を話し合う場を設け、感じたことを話してもらいました。



<浜頓別高校にて：高校生と大学生の集合場面>



<ぶんちゃん牧場にて：酪農にかける想いをお聞きした>



<ぶんちゃん牧場にて：高校生の搾乳体験>



<船上にて：船乗り体験を楽しむ>



<高校前の公園にて：ツアー後の発表の様子>

3. 5. 三日目、四日目：地元住民へのインタビュー、カヌー体験など



<8月6日クッチャロ湖小沼：早朝にカヌー体験>



<8月6日 浜頓別高校：高校の先生にインタビュー>





<商店街の方へのインタビュー後に>



<仁達内コミュニティセンターにて：大学生同士の打ち合わせ>



<地元の海産物などを味わう食事>

### 3. 6. 五日目：最終発表会

日時：8月8日 14時～17時

参加者：75名（大学生15名含む）

場所：浜頓別町福祉センター

概要：大学生が6日間浜頓別で体験・調査・インタビューなどをおこなってきた成果を班（A、B、C）ごとに発表しました。地元住民の方々約60名に来場していただき、前半の発表後、後半では活発な意見交換をおこなうことができました。



<福祉センターにて：来場者の方々に、発表会・懇親会で日本コカ・コーラ株式会社様の協賛品をお配りしました>



<福祉センターにて：北海道知事からのあいさつを代読>





＜福祉センターにて：高校生の発表＞



＜福祉センターにて：発表の中で高校生に劇をやってもらった班も＞



＜福祉センターにて：発表後の写真＞





<福祉センターにて：発表会の後半ではブースごとに分かれて双方向のやりとり（A班）>



<福祉センターにて：C班は住民の方にインタビューし、その場であそび場マップを作成しました>



<福祉センターにて：懇親会の様子>

<2009年8月4日  
日刊宗谷新聞>

## きょうから開催

### はまとんべつ 魅力発見プロ

【浜頓別】東大生と浜頓別高校生が交流を続け、町の魅力など探ってきた「はまとんべつ魅力発見プログラム」は、4日から9日の日程でクッチャロ湖などで開催。東大生など東京の大学生20人が訪れて、様々な体験に挑み浜頓別の魅力をまとめる。8日午後2時から福祉センターで発表会を開くことになっている。

東大生達は昨夏に同湖で開いた環境サミットに

参加して、自然豊かな浜頓別の魅力にひかれ、浜頓別高校生との交流を繰り返しながら、地域の魅力探しを続けてきた。今夏の取り組みは、それらの集大成として地元の高校生と各種体験や見学を行ない、浜頓別の魅力を探り発表するもの。東京の大学生が発見した魅力を地域活性化に有効活用するにはどうすればいいかといったことも意見交換する。

実行委では最終発表会に参加して、町の魅力やその活かし方を一緒に考えようと呼びかけている。

## 浜頓別の魅力発見

### 大学生きょう最終発表

【浜頓別】東大生等を中心とした、都内の大学生17人が進めている「はまとんべつ魅力発見プログラム」つながらる町づくり、人づくりは、きょう8日午後2時から福祉センターで最終発表会を開催し、大学生の視点で見つけた町の魅力について発表するほか、来場者と意見交換して元気な町づくりについて考える。

来町している大学生は、東大、早大、お茶の水女

子大など。最終発表を前に、4日から来町し漁業や酪農業の現場で基幹産

業にふれ、町内の催しにも参加。クッチャロ湖のカヌーで豊かな自然を再認識。町民へ町の魅力を聞き取り調査するなど取り組みだ。

この5日間と事前の浜

高生とのワークショップで学生が感じた町の魅力がどうまとまるか、実行委では会場で見学して

下さいと呼びかけている。



クッチャロ湖でカヌー体験した大学生

<2009年8月8日 日刊宗谷新聞>





大学生がマチの活性化策を提言した発表会

# 「大学創設を」「音楽祭せひ」

## 「はまとん魅力発見」最終発表会

### 首都圏の大学生 活性化へ提言

【浜頓別】東大の学生サークル「環境三四郎」が取り組んでいる「はまとん魅力発見プログラム」で、首都圏の大学生がマチの魅力と発信方法を探し町内を取材、8日に町福祉センターで最終発表会を開いた。「はまとん大学創設」など、ユニークな提案をした。(寺林正郁)

同サークルの巻島隆らが昨秋から続けてき一元の若者の交流を通じて活性化策模索の総まとめという位置付けだ。

東大をはじめ早稲田大、お茶の水女子大など5大学の15人が4日に浜頓別入り。3班に分かれ浜頓別高の生徒らと協力し、町民へのインタビューやフィールドワークを続けていた。

発表会では、班ごとに「誰でも学生になれ、教授にもなる住民主体の『はまとん大学』を創設し活性化を図る」「自然と一体化した音

楽イベント『ロッキン・トン・ジャパン・フェス』を開く」など次々と提言。

若者の生の声として、町内の清野祐輔君(高3)は「もっと浜頓別を自慢するべきだと思っ」。小学6年まで3年間、町内の小学校に山村留学していた大阪の岡村祥平君(中3)が「やっぱり自然が魅力」と呼び掛ける

場面もあった。会場には町民ら50人が詰めかけ、若者の提言を熱心に聞いた。

プログラムに協力してきた町内のNPO法人クッチャロ湖エコーカーズの毛利秀敬理

理事長は「提案をわれわれの活動にも生かしていきたい」と話していた。

<2009年 8月10日 北海道新聞>



## 4、学生からの提案内容

### 4. 1. 発表内容の紹介

最終発表会で、学生からなされた提案を簡単にご紹介させていただきます。

A班	<p><u>「はまとんに大学をつくろう！～みんな学生のまち、はまとん～」</u></p> <p>浜頓別の住民が持つ趣味・特技や浜頓別を活性化させたいという思いこそが浜頓別の魅力であるとし、浜頓別に地元住民を講師とする市民大学を作ることを目指す。授業はネットを通じて配信することで全国の住民が見られるようにする。第一回目の講義は <a href="http://www.youtube.com/watch?v=BlFtB-OkKUA">http://www.youtube.com/watch?v=BlFtB-OkKUA</a> にて配信中。</p>
B班	<p><u>「ハマトンもと暗し～Water Experience～」</u></p> <p>クッチャロ湖や頓別川、ウソタンナイ川など水系と町の人々とのつながりを調査し、発表。また地元牧場に山村留学で来ていた高校生から牧場再建の想いを語ってもらい、町長の支援も取り付けた。提案としては、ゲーム形式で浜頓別の様々な地を回ることで、さまざまなコミュニティ間の意識の差を埋める「はまとん冒険プロジェクト」を提案した。</p>
C班	<p><u>「はまとんタンポポプロジェクト」</u></p> <p>浜頓別を「物語」のある町にし、それを可視化しようと考え、浜頓別の場所とその場所にまつわる思い出を記したガイドブックを作成した。またコミュニティや年代を超えた交流を促進しようと、浜頓別での音楽祭「ロッキントン・ジャパン・フェス」を提案した。</p>

学生たちの提案は、発表会で受けた指摘などをもとに、9月末までに企画書という形で練り直し、浜頓別町の住民のみなさまのもとへと届ける予定です。



【設問別の回答】

Q1. 本日の発表会の満足度を教えてください。

満足である 16名

どちらかと言えば満足である 8名

どちらかといえば不満である 1名

不満である 0名

※2名は未回答

Q2. 本日の発表会は、浜頓別の町づくりに対して何か取り組むきっかけになりますか？

元々取り組んでおり、その取り組みに満足している。 4名

元々取り組んでいたが、今日をきっかけにより発展的な活動ができそうである。 14名

今日をきっかけに、町づくりの活動に対して取り組んでいきたい。 7名

取り組みを行っていないし、今日も何かに取り組むきっかけにはならなかった。 0名

※2名は未回答

Q3. 東京からの大学生が浜頓別の町づくりに対して活動することをどう思いますか？

- ・大へん喜ばしい事です
- ・我々は長い間、浜頓別町に在住しているので、満せい化しており、良さがわからないので、これからも大学生がきて調査して、企画などをして頂きたい。
- ・本来は浜頓別町の若者、青年が率先して取り組むべきところだと思いますが、触発される良い機会になると思います。町に慣れてしまい、見失ったこの街の魅力を発見、再確認するきっかけになるだろうと思います。
- ・大いに結構である。都会の人の視線でもって地元の町づくりへ助言できることは地元にとっても参考になると思う。
- ・都会の人の目から見た地方の魅力を発見し、更には、地元の人々との交流が深まることは、大変意識のあることと思います。
- ・外からの目は大事だが、そこで生活するする人がいて町がつくられるということを考えてほしい。
- ・とてもよい刺激にはなります。
- ・大変よい事です
- ・浜頓別のねむって居るものを気づかせ、ほり起す気かいか（？）
- ・感謝しているし、今後も取り組んでほしい。
- ・大変有難く思っております。
- ・良いと思う。外から来た人の意見や考えは住んでいる人にいい刺激になると思う。
- ・良いと思う。
- ・浜頓別の魅力を再発見できた。地元の俺でもわからないところが見えてきた。
- ・大賛成です。もっと浜頓別の良さや苦しさを知ってほしい。
- ・大きな刺激になる。
- ・嬉しい縁だと思います



- ・とてもうれしいことだし、応援している。町民も見直すべきだし、一緒にがんばるべき。
- ・浜頓別の町づくりの活動と一緒に取り組んでくれてありがたい。
- ・すばらしい。
- ・短い間に浜頓別の持っている魅力と課題をよく分析して頂けたと思います。住民と大学生双方向からの取り組みで子ども達が故郷に誇りと自信がもてたらと思います。今年に限らず、これからもこのような取り組みをしてほしい。大学生の皆さんは今後日本を担っていく人達。いつまでもこの経験を忘れず、地方のことにずっと目を向けていってほしい。
- ・地元の住民に大変刺激になります。活性化につながります。
- ・おつかれ様でした。浜頓別町民と町外との人の考えには、違いがある。そこを発信することでお互いに価値観を刺激する良い機会だと思う。
- ・とてもいい事です。この機会ですこし明るさが見えました。
- ・とてもうれしい

Q4. 大学生や本日の発表会に対して何かご意見・ご感想があったらお教えてください。

- ・各班にわかれて発表されており、我々の町づくりに役に立つものと確信している。
- ・それぞれ面白いアイデアだと思います。アイデアを実現するべく、皆さんで団結して頑張ってもらいたいと思います。応援しております。
- ・地域活性化のため、大きなものに！
- ・浜頓別のまちはもとより、近隣の市町村もまき込んで、広がりがあるプロジェクトになることを期待します。稚内の北星学園大学とも交流してみてもいいですか？
- ・参加、聞く側のことを考えてほしい。(進行が早い、音がききとりづらい。)
- ・昨年の学生サミットから、さらなる企画的な発展、進化を期待して参加したが、レベルとしては変わりばえしなかった。毎年似たような企画で、中身も進歩があまり感じられないと、地元民は飽きてしまう。せめて、昨年の各発表をもう一度掘り起こし、そこからの発展を目指すべきだった。時間、労力をかけご苦労様ですが、企画レベルは残念でした。“しょせん・・・”
- ・B班の役場の工夫と住民のカイリ、市街地と他の地域のカイリがあると指てきがあった。町の活性化のためには住民協働の取り組みが大事であると思った。
- ・スライドで発表するだけでなく、配布資料もあった方が良く思う。
- ・毎年このような発表会を今後は地元の人とともにできないものではないでしょうか？
- ・町民と交流する事で再発見につながる。
- ・がんばってくれてるし、うれしいことですが、ツメの甘さが目立ちました。せっかくのがんばりが薄れてしまうので、最後は締めてほしかったかな。なにはともあれ、お疲れさま&ありがとう。
- ・最初の方は見れなかったけど、楽しかった。
- ・もっと機会を増やしてほしい。
- ・皆さんとても一生懸命で、好感がもてました。特に人材の活用についてはそのとおり！！学校（小中高）の活動でも、どんどん“地域の先生”に入ってもらえることができればと思います。
- ・参加者がもっと増えるよう町を上げての協力が必要だと思いました。
- ・良い意見が聞けたことが一番良かった。

- ・とても熱けつさが感じました。今後も薄れる事なく進行していってほしいと強く感じられました。
- ・とても良かったと思いました。

#### 【分析】

アンケートにご回答いただいた多くの方には好意的な意見をいただきました。しかし、一方で

- ・アンケートの回収率そのものが悪い
- ・地元住民の巻き込みが不足しているご指摘が多く、一部の人にとっては他人事で終わってしまった
- ・昨年の学生環境サミットの発表会に参加している方からは進歩がないとの手厳しい意見を頂いたなどの反省点もありました。

今後の活動がこういったものになるか明確な像は見えていないが、今回発表したプランとの関係性がわかり、今回の発表会に参加していただいたみなさまはもちろん、より多くの住民を巻き込めるようなものとしたい。

## 5、協賛・後援

### ご後援していただいた団体

北海道、農林水産省、環境省北海道地方環境事務所

### ご協賛していただいた企業

大同特殊鋼株式会社、サッポロビール株式会社、大同興業株式会社、株式会社 丸井グループ  
日本コカ・コーラ株式会社

(以下、ご協賛くださった地元企業のみなさま)

丹羽建設株式会社、スーパーなかむら、菅原佃煮工場

### ご協賛していただいた個人

(エコワーカーズ会員)

池田 麻紀、石田 要平、庵原 伸也、恵良田 将、菊地 勝幸、菊地 ともえ、斉藤 俊幸、佐藤 トヨ、  
新川 ミナ子、菅生 勇造、曾根田 邦夫、高橋 サダ子、高橋 忠重、長山 民男、丹羽 徳子、丹羽 幹典、  
毛利 秀敬、森 宏美、山本 英子

(エコワーカーズサポーター会員)

石川 健一、磯ヶ谷 薫、市川 保博、岩月 仁志、上杉 道世、江川 修、奥村 博司、金井 好弥、  
鬼頭 幸平、熊澤 宏昭、小出 和廣、小島 康治、佐藤 雅春、篠田 徳寿、反町 英孝、タイガー総業(株)、  
大東 憲二、高橋 正、内藤 善博、中田 耕司、長屋 隼郎、正木 儀憲、水野 忠夫、矢野 伸一、吉田 力  
吉田 定郎

(環境三四郎)

泉 岳樹、大林 潔、木戸 大介 ロベルト、杉山 昌弘、竹内 文乃、中山 惇、広瀬 雄一郎、  
星野 真有美、森田 孝明、守谷 修、山下 英俊、渡辺 善敬



協賛企業・後援団体を紹介するパワーポイントを開会式・発表会の場で使わせていただきました。大学生や地元住民のみなさまに対してご説明させていただきました。

## 後援団体・協賛企業さま紹介で使ったパワーポイントのスライド

※開会式および発表会の場で使用。

**【後援団体】**

農林水産省  
環境省北海道地方環境事務所  
北海道

**【協賛】**  
大同特殊鋼株式会社

- ◆名古屋に本社を置く、世界一の特殊鋼リーディングカンパニー。
- ◆クッチャロ湖畔の半島の約3分の2を所有し、“クッチャロ 自然の森だいでう”と名付けて、植樹などの環境活動を展開しています。
- ◆2006年より、社員を対象に「エコキャンツアー」を開催。NPO法人クッチャロ湖エコワーカーズの協力のもと、毎年、クッチャロ湖のほとりでキャンプを行っています。
- ◆NPO法人クッチャロ湖エコワーカーズのスペシャルサポーターとして、クッチャロ湖の環境保全を応援しています。

**【協賛】**  
大同興業株式会社

- ◆大同特殊鋼のグループ会社。
- ◆特殊鋼をメインに、鉄鋼・原料・機械設備・電子デバイスなどの輸入・販売を行う専門商社。
- ◆スクラップなどの資源を有効活用していくことも視野にいれ、商社として、環境保全活動に取り組んでいます。
- ◆NPO法人クッチャロ湖エコワーカーズのサテライトサポーターとして、クッチャロ湖の環境保全を応援しています。

**【協賛】**  
サッポロビール株式会社

- ◆130年にわたるビールの醸造技術。
- ◆「おいしさも、安心も、サッポロビールはすべて責任品質」という企業メッセージのもと、ビール事業を中心に酒類事業を展開。サッポロならではの独自の価値を持つ商品・サービスを提案しています。

**【協賛】**  
株式会社 丸井グループ

- ◆小売、カード、小売関連サービスの3事業をおこなう
- ◆地域に応じた事業を行いながらも全国的に展開
- ◆CSR活動として救済衣料活動などを実施

**【物品協賛】**  
日本コカ・コーラ株式会社

- ◆日本コカ・コーラはザ コカ・コーラ カンパニー(本社:米国ジョージア州アトランタ)の日本法人として1957年に設立。日本のコカ・コーラシステムにおいて、飲料製品の原液の製造・供給、また製品開発、マーケティング活動を担っている。
- ◆物品協賛:コカ・コーラ社製品900本

**その他、ご協賛くださった浜頓別町内の企業**

- ◆丹羽建設株式会社
- ◆スーパーなかむら
- ◆菅原個煮工場

その他、多数の地元の方に個人協賛をいただきました

また、期間中にサッポロビール株式会社、日本コカ・コーラ株式会社さまの飲料を飲みました。

### サッポロビール株式会社

8月4日（火）夜のウエルカムパーティ、8月8日（土）発表会後の懇親会の場で、サッポロビール株式会社の生ビールを飲みました（地元のスーパーなかむらにて購入）。



<8月4日クッチャロ湖畔のウエルカムパーティ><8月8日事務局のエコハウスでの懇親会>

### 日本コカ・コーラ株式会社

8月5日（水）～7日（金）のツアー期間中に大学生・高校生が飲んだほか、8月8日（土）の発表会の場では地元住民の方に配布しました。



<8月8日福祉センター発表会とその後の懇親会の写真>

## 6、会計報告

会計の決算は以下のようになっています。

	区分	決算額	内訳	金額	人数	一人あたり	
収入	自己資金	¥ 1,057,844	環境三四郎から(借入金含む)	¥ 108,000			
			参加費(大学生/スタッフ)	¥ 409,844	16		
			事前訪問費(スタッフ負担分)	¥ 540,000	のべ27	¥ 20,000	
	補助金・協賛金	¥ 570,600	キャンプ場使用料(町から)	¥ -			
			レンタルサイクル(町から)	¥ 25,600			
			その他協賛(大同etc)	¥ 425,000			
			町から講師派遣金	¥ 120,000			
個人寄付	¥ 181,000	個人寄付	¥ 181,000				
<b>総額</b>	<b>¥ 1,809,444</b>						
支出	謝金・賃金	¥ 94,529	謝金	¥ 94,529			
	旅費	¥ 1,345,808	(準備)現地経費	¥ -			
			(準備)事前訪問交通費	¥ 810,000	のべ27	¥ 30,000	
			講師(東京ー浜頓別往復)	¥ -			
			(スタッフ含む東京ー浜頓別往復)	¥ 402,060			
			講師宿泊費	¥ -			
			現地食材費・懇親会費・風呂代	¥ 126,018			
			旅行保険	¥ 7,730			
	借損料・役務費	¥ 199,227	説明会など会場費(含む事後ミーティング)	¥ 2,368			
			車関係費				
			(借り上げ代、駐車場費、燃	¥ 47,527			
			現地体験費(カヌー体験など)	¥ 31,300			
			現地施設利用料	¥ -			
			印刷費(ポスター、チラシ、参加者への案内)	¥ 32,572			
			広告宣伝費	¥ 5,600			
			キャンプ場	¥ 4,260			
			レンタルサイクル	¥ 25,600			
			借金返済(環境三四郎)	¥ 50,000			
	物品・資材購入費	¥ 99,350	ワークショップ用備品(模型制作)	¥ 23,593			
			備品(紙・筆記用具等)	¥ 75,757			
	事務管理費	¥ 70,530		¥ -			
			資料郵送費	¥ 20,530			
			報告書作成	¥ 50,000			
		説明会用の雑費	¥ -				
<b>総額</b>	<b>¥ 1,809,444</b>						



## 7、報道採録

「はまとん魅力発見プログラム 2009」について取り上げていただきました新聞記事。テレビを紹介いたします。

### <掲載新聞記事>

- 2008年12月10日 日刊宗谷新聞「体験ツアーを企画」
- 2008年12月10日 北海道新聞「中高生と交流し貴重な自然語る」.
- 2008年.12月.11日 日刊宗谷新聞 コラム
- 2009年.2月.21日 日刊宗谷新聞「講演や報告会 8日浜頓別で環境フォーラム」
- 2009年.3月.11日 日刊宗谷新聞「クッチャロ湖保全 浜頓別で環境フォーラム」
- 2009年.3月.14日 北海道新聞「地場食材で料理やエコツアー 浜頓別の魅力発信を」
- 2009年.3月.17日 日刊宗谷新聞「地元高生と環境共育」
- 2009年.4月.28日 東大新聞「北海道の高校生と語る ともにまちづくり 8月に」
- 2009年.5月.15日 北海道新聞「東大生浜頓別のまちおこし」
- 2009年.5月.19日 北海道新聞「東大生と地域PR企画」
- 2009年.5月.22日 日刊宗谷新聞「今夏エコツアー」
- 2009年.5月.23日 日本経済新聞「デートコースを考えよう 浜頓別の高校生に体験型講座」
- 2009年.6月.17日 日本経済新聞「よそ者と若者が町づくり 活動通じ魅力発掘」
- 2009年.7月.7日 日刊宗谷新聞「高橋知事南宗谷へ 公約の『まちかど対話』高校生と気さくに」
- 2009年.8月.3日 毎日新聞「地球と暮らす：／84 環境三四郎『よそ者』の目で魅力発見」
- 2009年.8月.4日 日刊宗谷新聞「きょうから開催 はまとんべつ魅力発見プログラム」
- 2009年.8月.8日 日刊宗谷新聞「浜頓別の魅力発見 大学生グループ きょう最終発表」
- 2009年.8月.9日 北海道新聞「『大学創設を』『音楽祭ぜひ』首都圏の大学生 活性化へ提言」

### <テレビ>

- 2009年7月6日 札幌放送ニュース 「東大生が浜頓別町をPR」

### <その他>

- 広報はまとんべつ 7月号 (2009年7月10日発行)

## 8、最後に

### 8. 1. 実行委員長より

8月8日の発表後も学生たちの活動は続いています。それぞれの班が発表会で発表した内容をさらに掘り下げ、9月末までに提案した活動の企画書を作成します。「これに従えば活動ができる」というような型にはまった企画書ではなく、浜頓別の一般の方々が積極的に読みたくなり、読んで自分たちが町のために何かしようと思うきっかけになるようなものを目指します。その企画書は今年中に学生スタッフが責任を持って浜頓別町まで配布しに行く予定です。

また活動の成果は10月17日に東京大学にて行われる「全国エコツーリズム学生シンポジウム2009」で発表する予定です。今後の活動にもどうぞご期待下さい。

2009年9月9日  
東京大学法学部3年  
巻島隆雄

■編集後記■

報告書の編集を通して、本当に多くの方々に支えられたプロジェクトであったことを思い出しました。ご協賛・ご後援くださったみなさま、浜頓別町民のみなさま、参加者のみなさま、そしてスタッフのみなさま、ありがとうございました。関わってくださった時期は人それぞれですが、この報告書がその時の想いを思い出すのに役立てば幸いです。

編集責任者 巻島隆雄

---

発行日	2009年9月9日
発行	CASE 1 stage2 「はまもん魅力発見プログラム2009」 実行委員会
発行責任者	巻島隆雄
編集責任者	巻島隆雄

---